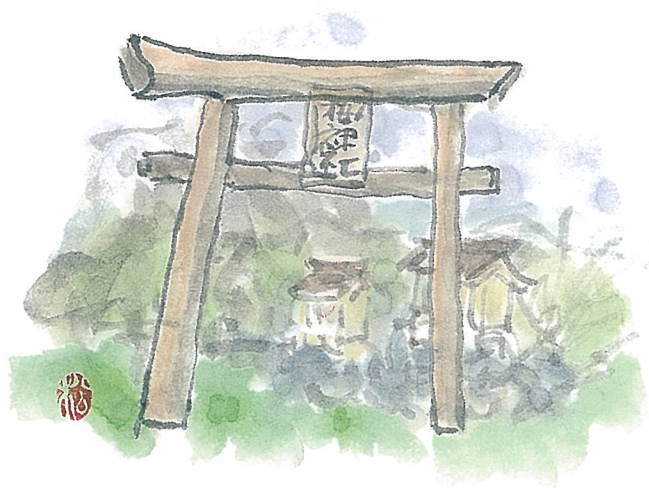


母神社

(仙隠峯)



神社の由来は、残されている棟札によると、安政5年(1858)に木山^{こざ}牛頭天王社として建立され、祀られていたが、その後、明治時代(年代不明)、登賀神社、^{とがじんじゃ}疋痛山^{せんつうざん}止賀神社^{とがじんじゃ}と名称が変わり、明治40年(1907)に現在の^{とがじんじゃ}母神社となった。

稲田姫伝説によると、母君が姫君を探しあて、会見された場所が^{あいみこおり}会見郡(現在の日南町)となったと言われている。日野郡「船通山」の大神木の^{とが}母の分霊木を母神社に持ち帰ったと古書にある。

古老の話によると、昭和50年(1975)代まで樹高30メートル余りで直径33センチメートルの母の老木が社殿の横にあったという。

平成14年1月社殿が老朽化し、元あった場所から地権者尾崎家のご協力により現在地に移転された。

境内には牛頭天王、荒神、縄葉(秋葉)の三神を合祀した^{あいどの}相殿がある。



母神社



三神の相殿

祭司は大鳥居神社宮司吉田武章、例祭日は毎年七月第一日曜日、総代長は鳥飼栄である。「仙隠の母さん」と親しまれ^{せんき}疋気の神様として霊驗あらたかであると信仰されている。